

鄭文

焚陽



余用拙

仙儀



「此天柱之山題字」

「落ち穂拾い記」

『雲峰山全套』①

④2

鄭道昭の「鄭羲下碑」や「論經書詩」は、六朝楷書の第一に挙げられる古典碑帖である。原拓本は、やや大部な帖で高くてなかなか手が出せなかった。二十代の終わり頃に、古書即売会で原刻拓本と思い求めて、帰宅して影印本と比較して翻刻拓本と知り、深く後悔した記憶がある。この鄭道昭の雲峰山、太基山、天柱山等の大小四十数件の摩崖刻石拓本は、「雲峰山全套」と称されている。明治初期に来日した楊守敬が、日本の書壇にはじめてこの「雲峰山全套」を紹介した。以来、始めに挙げたスケールの大きな「鄭羲下碑」や「論經書詩」は、六朝書の古典として多くの人々に学ばれてきた。明治から今日まで、多くの碑帖拓本が日本にもたらされてきたが、この「雲峰山全套」拓本の揃いは、高価であり、得難いものであった。三十代の中頃か、通販で「雲峰山全套」剪装拓本の不全本を入手した。紺色の紙の表紙で、剪装部分は、拓字の周囲を黒色で配された趣ある剪装であった。「鄭羲下碑」、「鄭羲上碑」、「論經書詩」(不全)、「登太基山詩」(不全)、「觀海童詩」、「東堪石室銘」、「天柱山銘」、「重登雲峰山記」、「天柱山雲峰山題字(二冊)」全冊同じ装幀であり、全套ではなく三割ほどが不足していた。「論經書詩」「登太基山詩」がそれぞれ半分失われていた。鑑蔵印や題記もなく、また虫損もなく、保存のいい拓であった。特にその拓調が、摩崖の石面の凹凸の状況が実に丁寧な拓され、その中に字画が美事に拓され、拓紙の文字を取り囲むように装された黒色の中に、文字が浮かび上がり、実に美事な碑帖に装幀されていた。図版は、縮小であるが、拓帖の趣が伝わるように、「鄭羲下碑」「東堪石室銘」「此天柱山題字」の三種をそれぞれ見開きで示した。

伊藤滋(書齋名・木鷄室)

令和の群像 (2023)



小野由紀

仲間達と共に

小学生の時、同級生が習っているからという理由で、母に連れられ浜田一堂先生の書苑社に伺ったのが書道との出会いです。それから半世紀以上が過ぎてしまいました。小さかった頃の日曜日の朝、お稽古場に行くと、先輩方が徹夜して作品を書いていた姿を見て驚いたり稽古中に筆遣いを教えて頂いたり、諸先輩の背中を見てきたように思います。私もいつかはあの様に作品を書くことがあるのかな? と思ったものです。書道が何ものか分からない頃から様々な講習会に連れて行って頂いたり、お手伝

いをしたりして楽しみながらお稽古を続け、ここまで来たように思います。講習会では、たくさん先生の揮毫する姿を直接拝見する機会を頂いた事、色々なお話を伺うことができた事がどれ程刺激になり、勉強になったことでしょうか。講習会のあの熱気がとても懐かしく思い出されます。進学、就職、結婚等書道から遠ざかることもありましたし、力があるわけでもない私がかつて書道を続けられたのは、一堂先生が「褒め上手」だった事、様々な体験をさせて頂いた事、決して無理強いすることなく私達の意志を大切に下さった事にあると思います。そして、共に学ぶ仲間達がいたという事が大きいと思います。一堂先生が旅立った後もお稽古場をそのまま

使うことを許して頂けたのも有難い事でした。今、月に数回お稽古場に皆が集まり、古典の臨書をしたり、作品を書く等していません。臨書するにしても、創作するにしても、一人で書いているとどうしたら良いか分からなくなる事があります。皆で作品を見比べ、お互いに意見を出し合うことで、自分では気付かないところを指摘され、アイデアを頂くことが多いと思います。そして書き直しながら進むことでより良いものが出来ているように思います。この様に自分一人ではなかなかできなくとも、皆で取り組むことで少しずつ進歩していけるのではないかと思っています。何よりも、どんなに細くとも続けていくことこそ一番大切なことではないかと思えます。

あちらの世界にいらっしゃる一堂先生はこの様な私達の様子を、どの様に思っているのでしょうか。『それでいいよ、貴方達らしくして。』と違って頂けると嬉しいのですから……。



第73回毎日書道展出品作「栗木京子の歌」

小野由紀書

書のひろば

理事長 下谷 洋子

令和5年度公益財団法人定例理事会
令和4年度事業報告・決算など

3月の今年度事業計画・予算案などの審議に続き、5月13日事務所にて令和4年度事業報告・決算などの審議をしました。

当日午前中に院監事による監査が行われ、青木法律会計事務所所長青木康国様、瀬川様、院幹部（理事長、常務理事2名）同席にて滞りなく行われました。

午後2時からは財団理事17名（2名欠席）にて理事会が開催されました。

○議事・審議事項

- ・令和4年度事業報告及び決算承認
- ・定時評議委員会の招集
- ・第77回書道芸術院展関係人事（参与会員、常任総務、総務への昇格人事、審査会員への昇格、復帰・退会・逝去）

・第77回書道芸術院展、第75回全国学生書道展各部署長の選任など。

詳細は次号の院報にてご確認ください。

公益社団法人全日本書道連盟理事
会開催

5月18日（木）、上野精養軒にて全日

本書道連盟の理事会が開催されました。
議事

1 書写・書道教育推進協議会、ならびに日本書道ユネスコ登録推進協議会の活動報告

2 令和4年度助けあい募金の報告

3 今理事会、ならびに令和5年度総会（6月1日）での審議事項について

議決事項・令和4年度事業報告

ならびに決算の承認

・任期満了に伴う役員（理事・監事）改選について

4 令和5年度総会の進行について

5 令和5年度書写書道教育講演会について

6 令和5年度夏期書道大学講座について（8月4～6日開催予定）

講師

8月4日

〈篆書・隸書〉

中村伸夫先生

〈行書・草書〉

宮負丁香先生

8月5日

〈かな〉

岩井秀樹先生

〈漢字かな交じり書〉

船本芳雲先生

8月6日

〈刻字〉

薄田東仙先生

（詳細はP47掲載）

7 その他

第74回毎日書道展公募、会友搬入
状況 鑑別審査は5月26日から

本年の毎日書道展は、コロナ対策が
平時の対応になったため、通常の運営

に戻して公募・会友の搬入を行いました。

第74回毎日書道展出品状況

2023.5.24現在

	漢I	漢II	かI	かII	近詩	大字	篆刻	刻字	前衛	計
公募	2811	4512	1098	1241	3910	1380	235	534	827	16548
会友	1412	979	218	677	1347	406	76	48	264	5427
U23	317	494	82	93	559	158	54	20	46	1823
74回展計		10525		3409	5816	1944	365	602	1137	23798
73回展		10627		3561	5783	1879	401	659	1207	24117
										-319

院(全)	374		248	416	183	0	40	359	1620
73回展	372		261	415	171	0	42	355	1616
	2		-13	1	12	0	-2	4	4

出品状況は別掲の通りですが、やはり減少傾向は続いています。

5月26日～28日、国立新美術館にて刻字部を除き、未表装のまま鑑別を行いました。

6月30日～7月2日、会友作品を含め、入選上位作品と共に入賞審査が行われます。

会員賞選考は7月5日、文部科学大臣賞選考は6日に開催される予定です。

本院は昨年並の出品数となりましたが、会友が増えたものの、公募の減少が気になります。

G7 仙台科学技術大臣会合

仙台市秋保地区での開催に千葉蒼玄理事が書で協力

5月19日から広島で開催されたG7サミット（主要国首脳会議）の関係閣僚会合の一つとして、G7仙台科学技術大臣会合が仙台市の秋保地区で開かれました。千葉理事は、メイン会場の秋保温泉のホテルでのイベントの一つ、「仙台・東北の魅力のテーマごとの文字「謝・演・記・彩」などを揮毫し、三日間ワークショップを行いました。日本の書文化が、少しでも筆文字を通じて、各分野の世界に向けた交流の一翼を担う……これからも本院の先生方のような機会が増えればと思います。



イギリス閣外相フリーマン氏「夢」を書く

古典から現代詩文書への発展

① 風信帖風のひらがなの表現方法



- ・今回からは日本の三筆にスポットをあて、まずは風信帖に挑戦してみたい。
- ・筆は臨書作からこれまでは全て同じ兼毫筆を使用した。
- ・羲之から受け継がれた八面出鋒の筆遣いに加え、線質に厚みが出るような心がけた。
- ・文字の表情は全てが真正面を向くのではなく、変化を加え楽しんでみた。

② 風信帖風の現代詩文書



- ・墨の潤濁から生まれる肥瘦、大小の妙は率意の醍醐味といえる。しかし、計算されたものだと思ってしまう。空海の書の表情は当たり前の如く、ごく自然に理にならなくて実に見ていて心が落ち着く。
- ・右のことを配慮して書いてはみましたが、気持ちを込めては書けたが、「の」「る」に変化がほしかった。

積文：草の葉を落るより飛散哉

芭蕉

基礎基本講座

「武」の篆書の造形を作品にしてみると



〈作例〉



この様な作品を作ってみよう。

始めに二つの要素、白黒、曲直を制作する

(1) 白黒 (潤濁)

(2) 曲直



(1)



(2)



(3)



(4)

次に、この二つの要素を組み合わせると

(1)と(2)

(1)と(3)

(2)と(3)

(2)と(4)



(1)と(2)の組み合わせで上部を曲線で軽く、下部を直線で小さく黒くし〈作例〉とした。「武(武器)」という意味から「WAR」という題名を付けることもある。



林 一宏
(富山)



「己」

この度は、審査会員にご推挙頂き誠に有難うございます。田守光昭先生をはじめ、書友の皆様の日頃のご指導に深く感謝申し上げます。
「書は線である」という書径舎の教えのもと一本の線の大切さを胸に、これからも書の道に邁進してまいります。
(一宏)



根橋 明香
(長野)



「紫」

この度のご推挙に深く感謝申し上げます。小浜大明先生始め諸先輩のご指導を戴きながらここまで辿り着きました。今年も多くの仲間と大字書の練成会があり墨色、書体選びに悪戦苦闘しつつも習得の多い学びでした。自宅工房の庭先に咲く紫色の花々が目に留まり書いてみました。「書く程に高い巔」精進を重ねて参りたいです。
(明香)



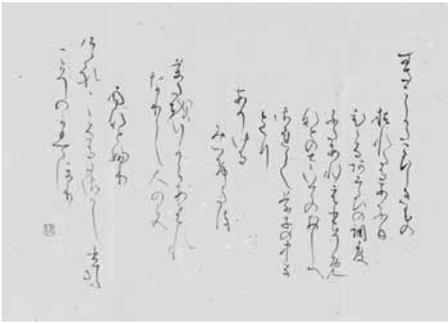
安藤 美悠
(東京)

「真摯に」

この度は審査会員にご推挙頂き有難うございます。「臨書を大切に」「詩情を大切に」「強く伸びやかな線を」と辻元大雲先生から書を学べる幸せ、ご縁を頂いた金木和子先生、白扇書道会の先生方に深謝致します。これからも心に残る言葉に出合い、真摯に書に向き合い研鑽を重ねて参ります。
(美悠)

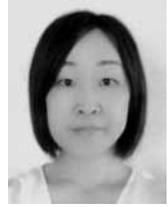


高橋 佳子
(宮城)



「過ぎにしかた」

この度は審査会員にご推挙いただきありがとうございます。きめ細やかにご指導くださった下谷洋子先生、書泉会・宮城野書人会の先生方に心より感謝申し上げます。作品は清少納言の枕草子第二十七段です。時を経たものへの愛しい気持ちを書き記したいと思いましたが。
(佳子)



本郷 谷恵
(宮城)



「虚心坦懐」

常に新たな素直な心で書に臨みたい、その思いを大切に学んでまいりました。基礎となる古典勉強、作品創作など熱心にご指導くださる半田藤扇先生はじめ諸先生方に心より感謝いたします。これまで学び積み重ねた事を大切に、線を鍛え表情の幅を広げていけるよう精進してまいります。
(谷恵)



齋賀 清翠
(千葉)



「平和への祈り」

書は心。やれば出来る。継続は力なり。京葉高校飯高先生ご指導の下、多彩な書表現に驚き、書く楽しさやったら出来た感動体験等貴重な高校生活。中学教師を勤め、書の道を歩み続ける今があります。
審査会員昇格に感謝し、心新たに精進致します。今後共にご指導宜しくお願い致します。
(清翠)



齋藤 杏邑
(宮城)



「風ひかる」

この度は、審査会員にご推挙頂き誠にありがとうございます。偏にご指導頂いた坂本素雪先生、菊田杏仙先生はじめ諸先生方のお陰であり、心から感謝申し上げます。作品は地方紙掲載の俳句を題材として谷川のせせらぎや春の情景が浮かぶよう心掛けましたが、何分未熟ですのでご指導の程お願い申し上げます。
(杏邑)



上岡まゆみ
(高知)



「泉」

この度は、審査会員に昇格させていただき誠にありがとうございます。いつも熱心にご指導くださる川島先生、大野先生、そして諸先輩方やよき仲間のおかげと心から感謝申し上げます。書の奥深さを感じながら、書の楽しさを大切に、これからも精進してまいります。
(まゆみ)



戸部 藤風
(千葉)



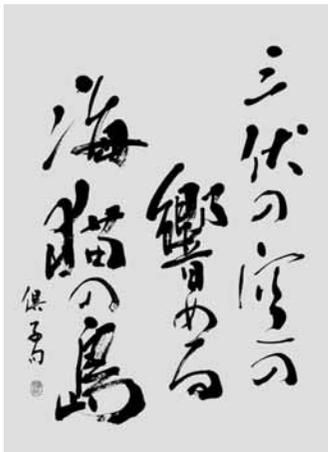
「結縁翰墨」

縁を翰墨に結ぶ詩文書画の道。もくせい会に入り10余年。心の支えとして書に向き合ってきたりました。熱心にご指導くださる半田藤扇先生はじめ、諸先生方とよき仲間のおかげと感謝しております。今後とも日々の研鑽を大切に邁進してまいります。ごさいま

(藤風)



吉田 溪花
(青森)



「藤木俱子の句」

この度は審査会員にご推挙頂きありがとうございます。田中扇溪先生はじめ諸先生方墨縁会の皆様のお陰と感謝しております。作品は八戸蕪島の情景に心を込めました。今後とも古典を軸とした、現代書の表現に挑戦して参りたいと思います。

(溪花)



川村 素舟
(青森)



「吉野秀彦の句」

墨とコーヒーの香りが満ちた素雪書院に通い始めて十年程経ちました。書道初心者の方に温かく指導して下さった坂本素雪先生や周りの方々に支えられここまで来ることができ、感謝の念に堪えません。今後はこれが書けたので悔いはない、という作品が書けるよう頑張りたいと思います。この作品はご挨拶の気持ちを込めて書きました。(素舟)



大友 四峰
(宮城)



「福永耕二の句」

この度は審査会員にご推挙頂きありがとうございます。故長井清流先生、長井四枝先生の熱心なご指導と書友の支えに感謝申し上げます。作品における私の原動力は四枝先生の前衛書に魅了された時の感動かもしれませぬ。言葉が持つ力を大切にし心新たに精進する所存です。

(四峰)

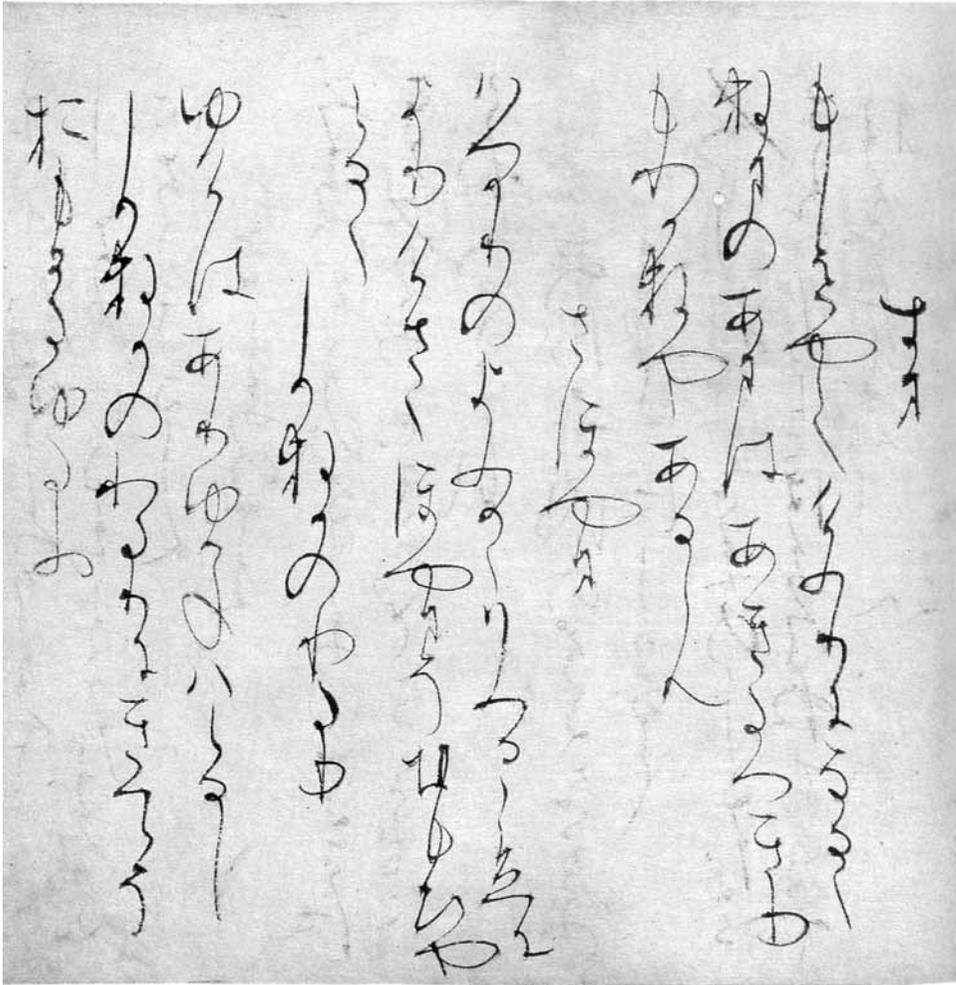
古筆鑑賞

(231)

中務集 (なかつかきしゅう)

(伝西行) (さいぎょう)

③



(出光美術館蔵)

※掲載図版は原寸

※古筆は原寸(以上も可)で臨書しませう。

かな研究部臨書課題
特別研究部臨書課題

〔半紙普通判(料紙可)・縦長に使用〕
別紙を裁断して貼付も可。半紙紙は半紙サイズに切って使用のこと。
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)
B. 大作の部 毎日展審査員・会員サイズ以内、2×6尺、全紙も可
A. 小品の部 半切以上、半切以内(縦横自由)
△いずれも左記の掲載以外も可。▽

〈よみ〉

すま万

もしをやくけぶりになるゝ

すまのあまはあきたつきり

もわかずやあるらむ

さほやま万

はつかりのよぶかゝりつるこゑに

よりけさゝほやまぞおもひや

らるゝ

しかすがのわたり

ゆけばありゆかねはくるし

しかすがのわたりにきてぞ

おもひたゆたふ

〈解説〉

紙面を切り裂くような歯切れのよい「中務集」の筆致からは、一種のさわやかさが感じ取れる。平安時代が暮を閉じて武士の世が始まろうとする頃(12世紀後半)に書写されたため、新しい息吹きのようなものがうかがえる。筆者は、藤原俊成の側近の者とされる。

なお、一首目冒頭の藻塩(歴史的かなづかいでは「もしほ」が「もしを」となっているのは、書写当時の発音とアクセントに従った表記である。(編集部)

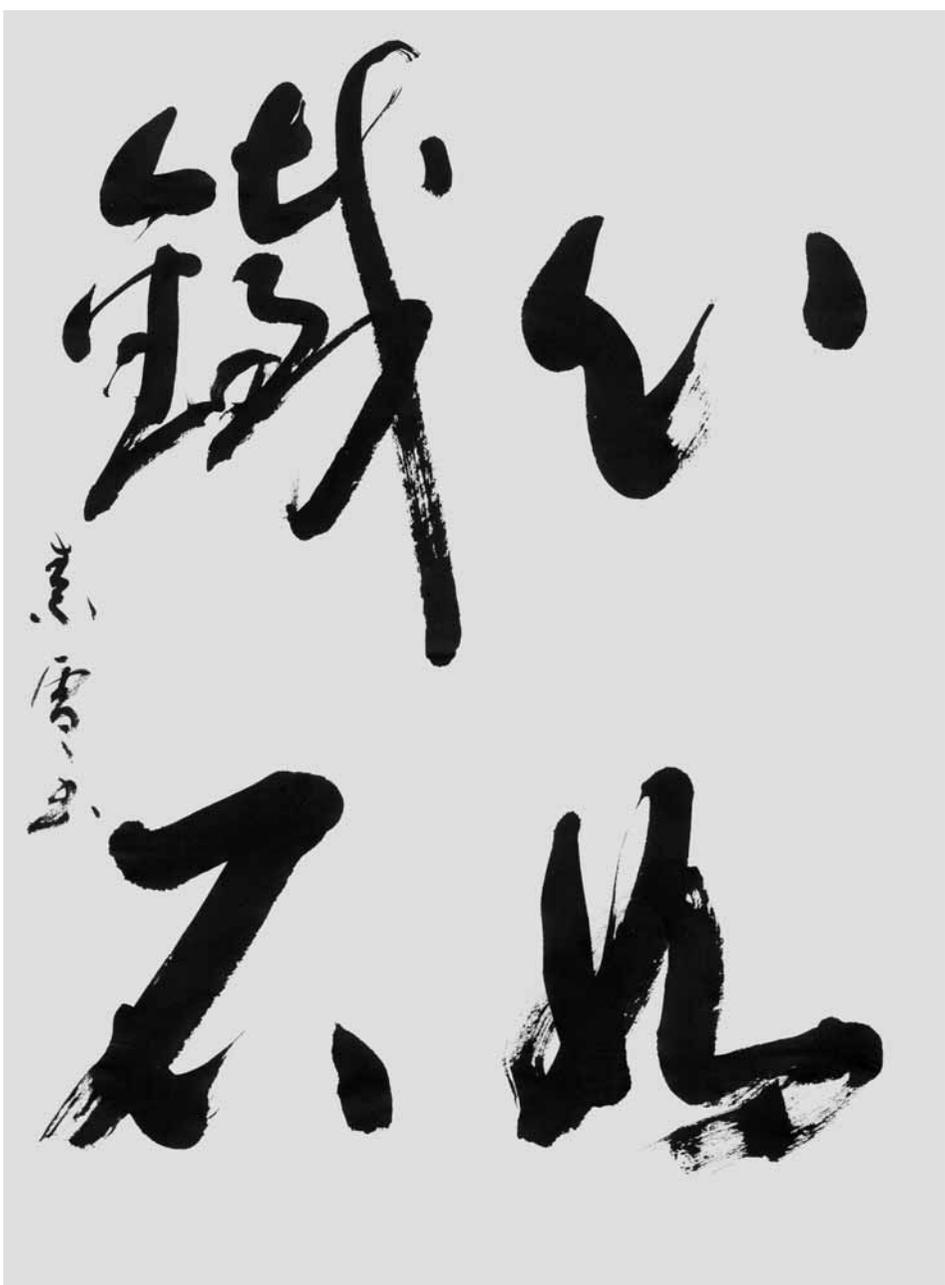
△今月の表紙▽

出光本の末尾にある奥書の一部。散らし書きの流麗美。

※落款を必ず入れる。署名、もししくは〇〇臨(押印のみも可)

漢字規定 初段以上 【七月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判

坂本素雪選書



心如鐵石

よみ (心鉄石の如し)

書体||自由

習い方解説 (三)

坂本素雪

心如鐵石 (新註墨場必携)

(心鉄石の如し)

鉄や石のような堅固な心

做書はあまり好きでないが、出来上がった作品は画数の少ない字形の方が、少し灌頂曆名に通ずる運筆や筆致かなと思う。特に画数の少ない字形は線に深味と味わいを与え、画数多い字は軽やかに舞う事にした。

「心」心の行草書体は色々あるので、ここに重く深く、自分なりに考えた字を入れて欲しい。創作の一步はそこから始まる。

「如」灌頂曆名の独特の重厚な線質で筆勢を強くする見せ場である。

「鉄」他の三字と違い、ここは、心して臨め。旁の方は墨継ぎ無しで一氣に書き上げる。軽やかな筆致は何度も何度も稽古あるのみである。

「石」重みのある、しかも風格のある雰囲気です。

漢字規定 秀級以下 【七月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判

大平 邑峰 選書

眠 雲
臥 石

邑峰書

眠雲臥石

よみ(雲に眠り石に臥す)

書体Ⅱ楷書

習い方解説 (三)

大平 邑峰

眠雲臥石

(雲に眠り石に臥す)

(劉禹錫)

雲中に眠り石の上にかりねして心を気高くする。

今月は、隋の智永真草千字文の楷書部分を参考にしてみました。真草とは、真書(楷書)と草書の二つの書体のことで、両書体で書かれた千字文を比較できるようになっています。

智永は、王羲之7代目の子孫であり、当時から書の名手として知られていました。温和で柔軟な書きぶりは、羲之に通ずるものを感じます。また、筆の弾力をうまく使って強弱のはっきりとした点画を表現しており、温和な雰囲気の中に強さと勢いを感じます。柔らかな行意のある楷書ですが、線の深みと強さのある表現を目指してみてください。

筆は、和筆の兼毫(軟らかめ)中鋒を用いました。

かな規定 初段以上 【七月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判（料紙可）

下谷洋子選書

習い方解説 (三)

下谷洋子

時鳥声待つほどは片岡の
森の雫に立ちや濡れまし

（紫式部「新古今和歌集」）

ほととぎすの声を待っている間は、片岡（京都賀茂神社にある丘の名）の森の朝霧の雫に、立っただけだろうか。

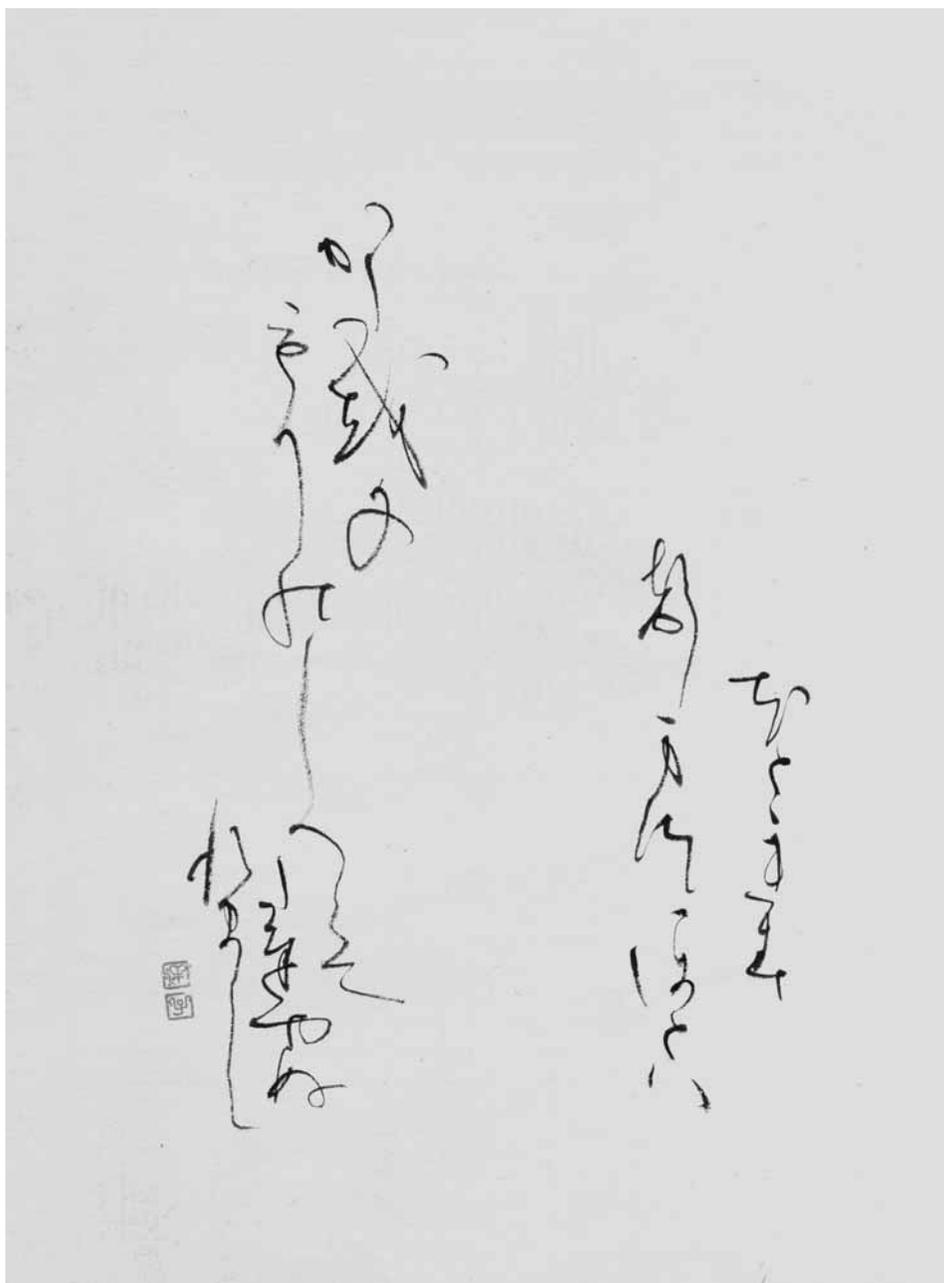
現在の私たちは、48文字の「ひらがな」を用いています。かな作品としては、他にたくさんの変体がなを 사용합니다。平安時代には、かなとして用いた字数は300以上あったと言われていました。変体がなを駆使することで、かなの美しさを最大に引き出すとしたのでしよう。「ひらがな」よりも強くインパクトのある変体がありますが、私は、小字作品の散らし書きでは、複雑な変体はなはなるべく使わないようにしています。もちろん、考え方は自由ですからこだわらなくて結構ですが、連綿を多用した縦流れが主の場合は、流れに寄り添ってリズムが出やすい比較的やさしい変体の方が合うようです。

* 料紙は半紙版（33.0×24.5cm）を使用しましょう。

よみ方

時鳥（本ととき春）声待（万）つ（徒）ほどは（八）片岡（か多越可）の森（毛り）の（能）雫（しづ）久（に）立（多）ち（運）や濡（ぬ）れまし

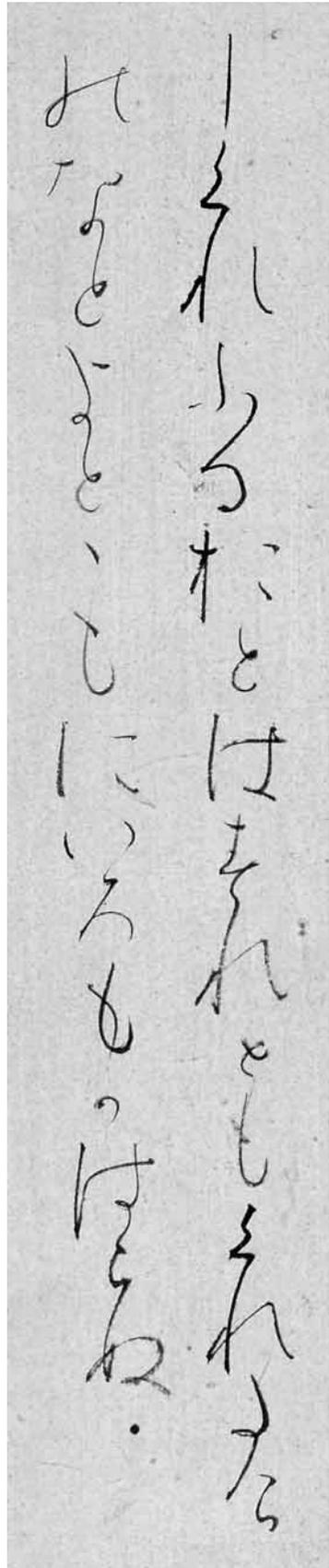
創作



かな規定 秀級以下 【七月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ1/2 (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

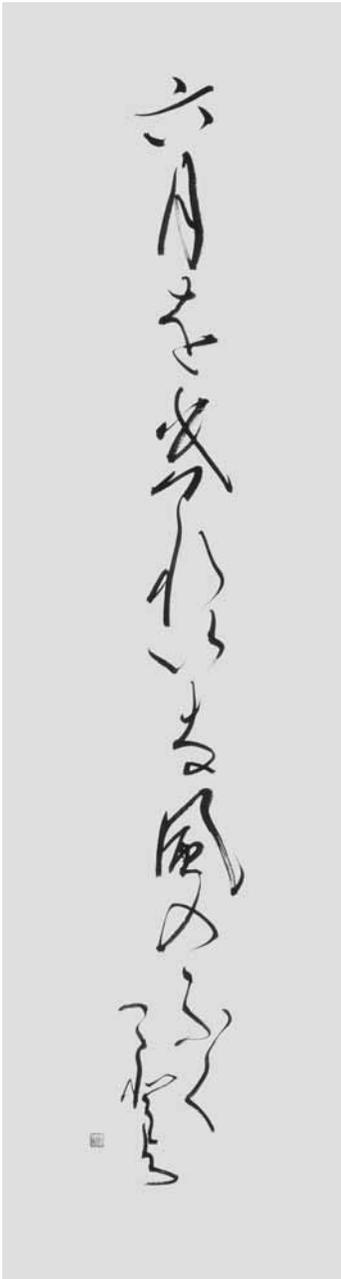
掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上の連続または単体を含む)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集
(掲載写真拡大120%)



よみ方 しぐ(久)れふるお(於)とはす(春)れどもく(久)れた(多)け(介)ノ(能)などよとくもにいろもか(可)はらぬ

かな条幅規定 【七月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切(料紙可) 須田清子選書



よみ方 六月を奇麗(幾れ以)な(奈)風の吹(ふ)く(久)こと(登)よ(与)

〈予告〉では「六月や」でしたが、「六月を」です。間違わないようにお願いします

創作

※5月号の課題参考手本に間違いがありました。6行目の「恵」は、「え」(衣・盈・江・要)に訂正します。
〈注〉「恵」で書かれた作品も出品は可能です。

習い方解説 (三)

須田清子

六月を奇麗な風の吹くことよ

(正岡子規)

「六月なのになんて爽やかな風が吹いてくることだろう。」
句の意味の雰囲気をごわさないように、書き出しの文字はあまり大きくしません。中程あたりで、文字を拡げて紙面に膨らみを持たせました。文字のあてはめ方の違いで、また一味違う作品になると思います。

※タテ形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 【七月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

後藤大峰 選書

日暖魚跳波面靜 風輕鳥語樹陰涼
輕鳥語樹陰涼 波面靜風

日暖魚跳波面靜 風輕鳥語樹陰涼
(日暖く魚跳りて波面靜かに 風輕く鳥語りて樹陰涼し)

書体||自由

習い方解説 (三)

後藤大峰

今回の隷書作品は行草作品と異なり、文字の形態の変化が少ないので、その点が難しいと思います。漢代の「八分隸」を基に書きました。用筆は逆入平出、いわゆる藏鋒を用います。最大の特徴は「波磔(はたく)」と呼ばれる横画のハライがあることです。

※タテ形式に限る

漢字条幅規定 秀級以下 【七月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

高田幽玄 選書

獨坐大雄峯

幽玄書

書体||自由

習い方解説 (三)

高田幽玄

「獨」はかけがえのない唯一無二の自分のこと。「坐」は覚悟を決めてどかりと坐ること。要するに絶対的に自己肯定することです。自ずと一茶の「悠然として山を見る蛙かな」を思い出します。

今月は顔真卿を念頭に書いてみました。彼の楷書は点画の中に豊かな空気を含み、堂々たる貫禄です。独特の筆法に注意しましょう。この字句にふさわしい書風です。

獨坐大雄峯
(獨坐大雄峯)

(碧巖録)

獨坐大雄峯

旅に出た。緑の山々や若葉の
森は私を迎え、山の呼吸と
私の鼓動がひとつになり、
響き合うのを感じる。
若葉の径 青篁書

書体＝自由

◇用紙 ハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用
◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

【注意】

用紙の大きさにばらつきが見られます。

用紙サイズ(ハガキ大14.8×10cm)を守ってください。

習い方解説 (三)

東福青篁

4・5月号は楷書でしたので、今月からは平易で読みやすく親しみのある行書の課題にしました。楷書に比べ点や線がつながったり、筆順の変化や点画が省略されたりすることにより形や運筆が自然に変わる場合があります。少し速書きとなるので、点画は流れ過ぎないように心掛けましょう。

今月は東山魁夷画文集、色の風景三部作の『青の風景』より「若葉の径」を選びました。柔らかな光に包まれた若葉の森の作品と共に、美しい文章が綴られています。

旅に出た。緑の山々や若葉の
森は私を迎え、山の呼吸と
私の鼓動がひとつになって
響き合うのを感じる。

「若葉の径」○○書

長雨 麦秋 福岡県 大分県

長雨 麦秋 福岡県 大分県

梅雨入りとなり蒸し暑い日々が続きます

梅雨入りとなり蒸し暑い日々が続きます

岩垣若翠

(掲載手本90%に縮小)

- ◇ 小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓号を
- ◇ 用紙は普通版半紙横 $\frac{1}{2}$ (24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
- ◇ 所定の出品券を作品の右下に貼る

(楷書) 長雨 麦秋 福岡県 大分県
(楷書) 梅雨入りとなり蒸し暑い日々が続きます

(行書) 長雨 麦秋 福岡県 大分県
(行書) 梅雨入りとなり蒸し暑い日々が続きます

基本用語 「麦秋」麦の取り入れの頃。季語とし
ては、夏。

木一作品 各部総評

NO. 744

漢字部 師範 鈴木 英晴

柔軟で伸びやかな線が躍動し、華麗な世界を創出している。鍛錬を積んだ技量の高さが窺える作。
◎漢字部総評 上位は鍛錬を重ねた上質な作品が多く激戦。学書の幅と深さが作品に現れる。着実な積み重ねが大切。
(萬城評)



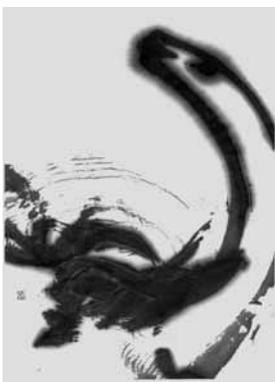
漢字条幅部 師範 中島 藤邑

骨気ある線が伸びやかに無理なく自然に運筆され明るい作に仕上がっている。落款も見事。
◎漢字条幅部総評 各体で創作意欲満々で楽しく拝見させていただいた。誤字、書きこみ不足の為未消化の作散見。
(石雲評)



前衛書部 特選 坂井 初江

紙面を飛び出す筆の勢いに魅力を感じる。潤いのある淡墨の色合いが良く空間の生かし方も見事。
◎前衛書部総評 初めて担当させて頂き創意に満ちた数々の力作に感動。
(白琉評)



かな条幅部 師範 関口やよえ

美しい紙運びと、過不足のない表現が奥ゆかしい。見飽きない趣は作者の探求心をも伝えて美事。



現代詩文書部 特選 有澤 溪翠

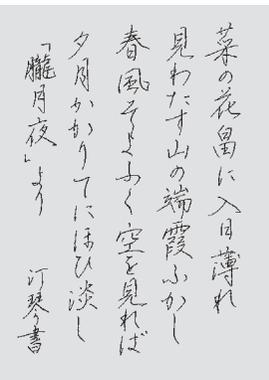
太い線と一句を一塊にした構成で白と黒が極立つ。軽妙な筆の動きにより重量感も適度である。
◎現代詩文書部総評 作品効果の為のやり過ぎと思える文字のデフォルメはどうかと思う。
(呂峰評)



◎かな条幅部総評 一部、墨量、墨色、字粒の過多で美しさから離れた作もあるが概ね手本の雰囲気をよく把握していた。
(明子評)

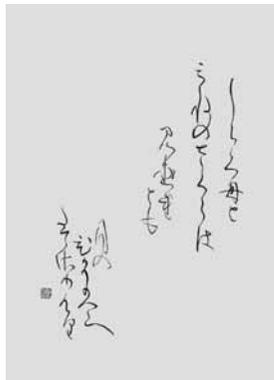
ペン字部 師範 竹清 汀琴

流麗な細線で表現された美しい行書体。歌の風景が目に見えかぶような、情緒豊かな作品です。
◎ペン字部総評 行間余白は概ね良かったが、天地の余白が足りず間延びした作品が散見。適度な余白を心がけましょう。
(孝子評)



かな部 師範 押元 順子

全体のバランスが美しい。小字かなの柔らかい線で太細リズム共に的確に運び、麗しい風韻を奏でる。
◎かな部総評 質のよい作品が多かった。上位に届かなかった方は、線が細すぎたり紙に対して小さすぎるためで一考したい。
(洋子評)





光裕蚩有久
 琴子江津子
 力まず自然体の運筆が佳

博綾邑珠成
 美雪里莉美
 非文字性作品の構成巧み

選評 北村 白 琉

強靱な線で緊張感溢れる
 青墨の濃淡に細線が調和
 潤濁の穏やかな変化の妙
 U字形部素敵上部惜しい

美津枝 京

強いつい口ずさみたくなる筆致
 強い意志を感じる線質
 強弱により遠近感醸す

沙 莉
 大小変化の妙味、落款佳
 終始筆よく動く。墨色佳

麗 雄
 滲みの効いた線で深味有

美 雅
 大らかな筆遣い、余白美

小 桃
 細太、墨量の変化成功
 変化に富む筆遣い味深し

美 芳
 深いコクのある線表現
 大らかで味わい深い線質

紅 雲
 三群構成、白生きる

千 華
 墨量変化自然で文字融合

花 華
 美しい淡墨でよく筆動く

幸 雲
 柔軟な線質とリズム佳し
 句意を生かした変化の美

恵 泉
 突き刺すような線で迫る

翠

筆の弾力を存分に發揮

選評 大平 邑 峰

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

選評 小竹石雲 石井明子 半田藤扇 山口仙草

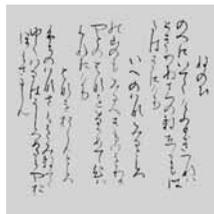
臨書 (清月) 境野和子 「中務集」



境野和子臨 35×135cm

◆終始一貫して快い緊張と優しさに満ちて乱れがない。古筆への思いと書くことへの愛にあふれた秀作。(明子評)

部分拡大



小品の部

前衛書 (紅瑤) 松本秀皋 「喜」



◆新鮮な流動的リズムで躍動する筆致が見事な作。潤濁も美しく配置され、安定感のある作となっている。(仙草評)

松本秀皋書

135×36cm

臨書 (大雲) 名取美紬 「風信帖」

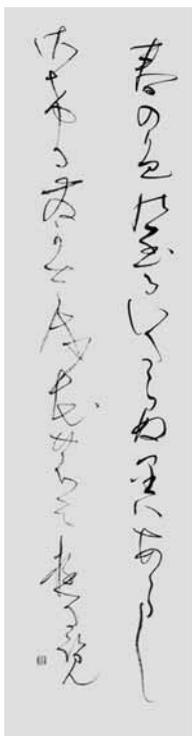


◆基本を忠実に丁寧な作に仕上げた。特徴をよく捉えているので心地よく拝見した。印象的な作。(藤扇評)

名取美紬臨

136×35cm

かな (潮音) 齋藤杏邑 「はるのいろの」



齋藤杏邑書

135×35cm

◆安心してゆっくり鑑賞できる作品は滅多に出会えない。この訴える力は作者の内面の潔さに他ならない。(明子評)

〈小品の部〉

創作の部(41点)
漢字 4点
かな 2点
現代 21点
篆刻 1点
前衛 13点
臨書の部(39点)
漢字 34点
かな 5点
総出品点数 80点

〈特選候補者〉

〔創作の部〕

〔漢字〕

水茎 高岡 秀汀

〔現代詩〕

もく 青木 藤漣

京橋 田中 一葉

玄穹 尾形 紅霞

梢翠 田中 梢翠

大雲 奥村 美楓

〔前衛〕

蓮紅 大友 紅蓉

秀水 青木 かよ

〔臨書の部〕

〔漢字〕

澄春 土屋 恵仙

華祥 玉淵 良章

書徑 佐々木 浩子

たか 浜野 永堂

英峰 佐藤 桂香

八街 三浦 小樹

もく 岡部 藤瓊

華祥 加藤 雅芳

〔かな〕

上泉 早部 朗

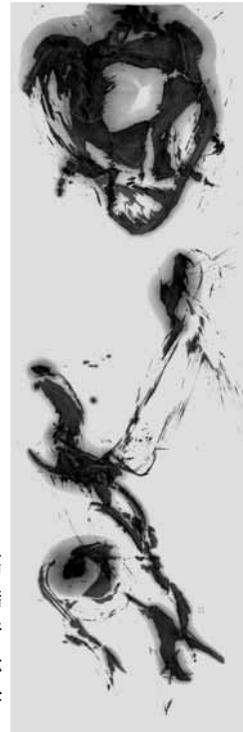
大作の部

前衛書

(花壁)

高橋清琳

「立夏」



高橋清琳書

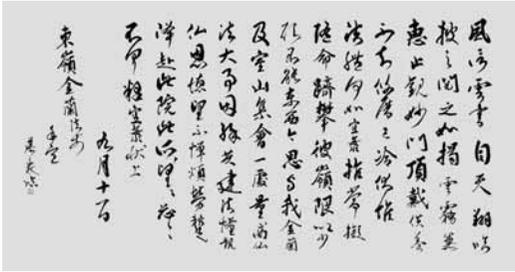
180×60cm

◆宿墨を巧みに使い滲みも美しい。全体にパランスもよく下部も安定し明快な充実作。

(仙草評)

臨書 (もくせい)

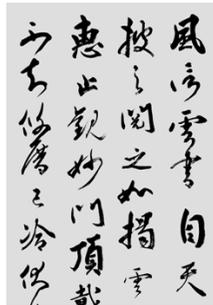
西川藤象「風信帖」



西川藤象臨

70×140cm

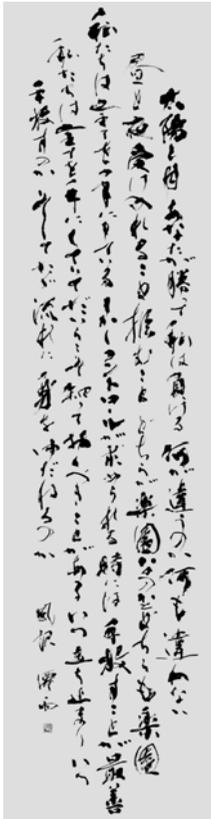
部分拡大



現代詩文書 (大雲)

長島僊雨

「The sun and the moon」



長島僊雨書

175×45cm

◆筆先の利いた澄明な線が活気に満ちたテンポのよい動きで魅力的。周囲の余白で一層鮮明さを増す。

(石雲評)

現代詩文書

(誠和)

石崎甘雨

「漆黒のインク」



石崎甘雨書

52×175cm

◆雄大な字宙が大胆な筆致で精力的に白い紙に乱舞する。漢字・かな・アルファベットの調和が美しい。

(石雲評)

〈大作の部〉

創作の部(27点)

漢字 1点

かな 2点

現代 7点

前衛 17点

臨書の部(13点)

漢字 13点

かな 0点

総出品点数

40点

〈特選候補者〉

〔創作の部〕

〔かな〕

游水 荒川 空華

〔現代詩〕

蓉花 坂本 蓉花

〔前衛〕

一弦 工藤 和香

容洲 阿部 邑里

松風 西條 松雲

趙雲 吉田 恵弦

秀恵 阿部 雅悠

玄象 大鹿 洋江

恵月 重村 恵月

紅瑠 佐藤 成美

〔臨書の部〕

〔漢字〕

千葉 竹浪 叙舟

紅瑠 金井みどり

〃 木暮 千晶

〃 笨 睦月

澄春 新行内 芳蘭

紅瑠 相澤 敦子

漢字研究部
(風信帖)

選評名越蒼竹

今月のホープ作品



笨 陸 月

漢字研究部 特選 笨

陸 月

原帖に忠実に向き合い、その技と書風を再現し得た見事な臨書。濃墨を用いたため軽妙な細線が少し浮き加減に見えるが、実際はよく鋒先が立っている。半紙四字の臨書では文字粒をもう少し揃えてよいかもしれない。

◎漢字研究部総評

風信帖は高校の書道Iに出てくるほどの名品中の名品です。現存する三つの書状のうち、

第一帖は王羲之の書法と顔真卿の書法が融合した書き振りで、臨書するにあたっては両者の特徴を理解して筆を執るべきです。つまり、「自分が見えるように書いた」のでは学んだことにならないのです。

また文字性に関する理解も重要で、上位者の中にも「怪しい字」が散見されたのは残念なことでした。字典での確認は大切です。



玉美初亜玲蒼
泉梢美希子風



翠舜祐谷佳千
陽水子秀月秋



三瑤白恵千芝
佐翠琴泉華香



泰翠沙芳 紅
香恵莉博 潤 雨

「書道芸術」特別昇段級試験 師範合格者模範作品

かな部 第三種

前橋 三上 かおり
 ・臨書は二点とも深い洞察力で迫り美しく、創作は躍動感のある表現で古典美と現代美を併せ持ち魅力あり。
 (石井明子)

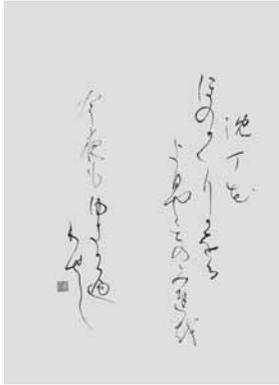
臨書 (関戸本古今和歌集)



臨書 (寸松庵色紙)



創作



森地 片桐 桃代
 ・三種類を満遍なく仕上げるのは難しいかと思うが、臨書も創作も基本を掴み、且つ表現力が備わっている。
 (下谷洋子)

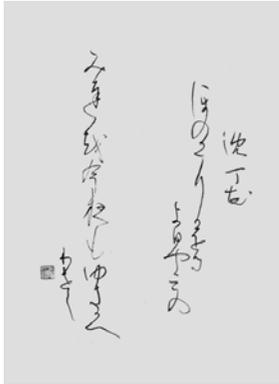
臨書 (関戸本古今和歌集)



臨書 (寸松庵色紙)



創作



総評

審査長

下谷 洋子

三年という長い期間、不自由な生活を強いられましたが、コロナも終息を見せ始め世の中は活気が戻っています。皆さんの書活動の取り組み方にもよい影響が出ていると思います。

そのような中、「書道芸術」定例の昇段級試験の、春の試験が実施されました。四月からの月例競書出品規定の改訂も関係したのか、久しぶりに若干応募者が増えました。

三種の実施科目は「漢字条幅」「かな」の両部門、他は二種まででした。特に三種に挑戦された方々は一年間かけて研鑽を積まれて臨んだと思いますが、試験であるため厳しい結果も生じることがご理解下さい。臨書と創作をバランス良く仕上げるのは難しいことでしょう。ただ、師範になるにはそれに相応しい力を身につけていただきたいので、ハードルを高くしています。古典の鑑識眼も含めてこれからも一層日々の努力を重ねて下さい。

漢字条幅部 第三種

竹扇 東 金等

八街 仙北屋 峰 雪

・平素より真摯に学書されている様子がうかがえ、
練度の高い気品に満ちた魅力的な作に仕上がる。

(小竹石雲)

楷書 創作

幽禽不見但聞語野
草無名都著花

金等書

楷書 創作

幽禽不見但聞語野
草無名都著花

峰雪書

・三体ともしっかりと書けている。やや楷書体が弱い
い感あるが筆力があるので作品全体に締りがある。

(後藤大峰)

行書 臨書(争座位稿)

嘗人臣極地豈不才為
世出功冠一時挫思明

東書

行書 臨書(争座位稿)

嘗人臣極地豈不才為世
出功冠一時挫思明

東書

草書 臨書(書譜)

複橋之形或重美海
雲或如蟬羽矣

東書

草書 臨書(書譜)

蟬翠葉之別泉注
振之別山女織

峰雪書

各部 短評

漢字

〈一種〉臨書はまず原帖をしっかりと観
察し、特徴を理解することが大切です。

「孔子廟堂碑」は、よく字形が整い、
明るく穏やかな用筆・運筆が特徴です。

温雅な表現を心掛けて下さい。

(倉林紅瑤)

〈二種〉墓誌銘は、明快な筆遣いと端
正な字形が特徴です。行書はリズムと

抑揚のある運筆がポイント。古典学習
から行書の表現を深めて下さい。落款

は、臨書には「臨」、創作には「書」
を必ず書きましょう。

(倉林紅瑤)

●篆刻

【七月十五日締めきり】

〈出品規定〉

- ① 摹刻 (ア) 課題による語句 (イ) 原印自由 (出品の際、原印のコピー添付)
- ② 創作 語句自由

- 印面の大きさは2.3cm(八分角)以内とし朱文、白文自由。
- 印箋は市販のもの、半紙横1/2の大きさに切ったものも可。
- 創作、摹刻とも応募は一人一点。

6月号 篆刻課題

〈原印コピー〉



◎出品方法

用紙の右側に押しし、左側に印影の釈文を明記 並びに落款(氏名)を入れる。

744号篆刻優秀作品

篆刻



特選 小沢華仙
原印観察は出書中随一の感
あります。更に正確な運刀、
好筆。

選評 後藤大峰

創作



特選 大沼樺峰
印面のスペースの処理が秀
逸である。文字を確実に収め
ている。

◎篆刻部総評

例月の応募作品が大分、少なくなりました。お一人でも多くのご応募を期待しております。(大峰評)

<p>(摹刻)</p> <p>特選 大雲 小沢華仙</p> <p>佳作(60書量) 新築 加藤 万丈 大雲 加藤 美梢 白琥 平塚 由香 生大 吉原 進</p>		<p>入選(60書量)</p> <p>小映 金谷 皓洋 木の 櫻井 惠華 香書 須賀澤 一起 北日 成田 能喜 (選外1名)</p>	
<p>(創作)</p> <p>特選 石心 大沼 樺峰</p> <p>佳作(60書量) 慈空 坂本 覚山 水荃 高岡 秀汀</p>		<p>秀作(60書量)</p> <p>生大 中島 義則 やま 橋本 清麿 粹仙 藤井 龍仙</p>	
<p>秀作(60書量)</p> <p>芳琴 小野寺 幸喜 大綱 片岡 豪峰 蒼原 庄司 櫻空 遊雲 中川 研治</p>		<p>入選(60書量)</p> <p>唯一 逢沢 唯一 遊雲 赤星 文庵 游水 荒川 空庵 (選外なし)</p>	

〈特選〉

昭和五十年一月二十七日第三種郵便物認可
令和五年五月二十五日 印 刷
令和五年六月一日 発 行

(毎月一回一日発行) 書道芸術 第七四六号

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は

101-0031 東京都千代田区
東神田一-1-6-17
東神田プラザビル3階

公益財団法人 書道芸術院

電話(03)3862-1954
FAX(03)3862-1957

ご連絡等は
月曜日～金曜日 10時～16時の間に
お願いいたします。(土・日祝日は休み)

送料

- 一か月の購読部数
1部～9部までの一回の郵送料
1部 79円
2部 95円
3部 103円
4部 119円
5部 135円
6部 151円
7部 167円
8部 183円
9部 199円
10部以上は 送料免除

令和五年五月二十五日印刷
令和五年六月一日発行

定価 一部 七五〇円

編集兼 下谷 洋子
発行人

発行所 株式会社リンクス
印刷 小沢写真印刷株式会社

発行所 公益財団法人 書道芸術院

〒101-0031 東京都千代田区東神田一-1-6-17
電話(03)3862-1954
FAX(03)3862-1957
振替 001504135058

ホームページ <http://www.hins.co.jp/shogai/>